病理部
Diagnostic Pathology

詳細はこちら

部長
こうはし　けんいち
孝橋　賢一



専門
病理全般

スタッフ

副部長　おくの　たかひろ　**奥野　高裕**
【専門】 病理全般

講師　しおはら　まさのり　**塩原　正規**
【専門】 病理全般

保健副主幹　しおみ　かずひこ　**塩見　和彦**
【専門】 病理全般

主査　あんどう　かなえ　**安藤　加奈江**
【専門】 病理全般

業務内容・特徴

1. 病理診断：手術または内視鏡学的検査等によって採取された材料から顕微鏡標本作製を行い、病理組織診断を行っています。必要に応じて特殊染色・酵素抗体法・蛍光抗体法・電子顕微鏡による詳細な検討も行います。
2. 術中診断：手術中に腫瘍の進行度、悪性度や切除断端への腫瘍浸潤の有無などの判断を行うため、凍結組織標本および迅速細胞診により診断を行っています。
3. 細胞診検査：婦人科細胞診、胸腹水などの体腔液、喀痰、尿およびその他の穿刺材料について形態学的な観点から悪性度の有無を判定します。また、液状化細胞診導入し、精度向上に向けて努力しています。
4. 病理解剖：生前の診断、治療効果の評価や死因を明らかにするために行われます。解剖症例は多数の医師の参加のもとに臨床病理検討会で検討され、生前の診断と治療が検証されます。病理解剖症例数が多い病院ほど医療の質は良くなります。
5. がんゲノム関連検査対応：癌治療のためのコンパニオン診断薬による検査、遺伝子パネル検査等に対応しており、専門病理医による腫瘍含有率の判定を実施しています。

主な検査機器・設備

全自動免疫染色装置、バーコード読み取り式スライドガラス印字装置包埋カセット印字装置、蛍光顕微鏡装置自動染色装置・自動封入機、液状化細胞診検体処理装置、バーチャルスライドシステム等、バーコードによるシステム管理を行い、各工程での照合間違いを起こさない安全性に配慮した検査機器を導入しています。

中央手術部
Department of Central Surgical Room

詳細はこちら

部長
もとむら　ひさし
元村　尚嗣



専門
形成外科

スタッフ

副部長　まつうら　ただし　**松浦　正**
【専門】 麻酔科

保健副主幹　さだ　りょうじ　**定　亮志**
【専門】 手術部管理 専門手術臨床工学技士

主査　こいで　なおき　**小出　直樹**
【専門】 臨床工学技士

業務内容・特徴

手術室は 19 室で運営しております。2025 年度の手術実績は 9,446 件（麻酔科管理症例 6,683 件）でした。近年、急増する手術件数と多様に進化していく手術に対応するため、以下の取り組みを行っております。

1. 多職種連携：手術室清潔環境の維持、手術器械の洗浄滅菌から準備・使用までのトレーサビリティ、薬剤管理、医療機器･診療材料の整備、迅速な術中検査やレントゲン撮影、医療安全管理など、多職種が連携して手術環境を整えています。
2. 人材育成と教育：医師、看護師、臨床工学技士、その他のメディカルスタッフや学生に対する教育とフィードバックを通じて、多様な診療科における高度な手術技術の習得を支援しています。
3. 円滑な手術室運営：術後回復室及び手術室の効率的な運用を実現し、緊急手術を含む全ての手術で患者さんの待ち時間を最小限に抑えるよう努めています。

これらの取り組みにより、患者さんが安心して手術を受けられる環境を整えております。今後とも、高度な医療サービスの提供を目指し、スタッフ一丸となってさらなる努力を続けてまいります。

主な検査機器・設備

・ハイブリッド手術室	1 室	・4K3D 鏡視下手術装置	4 台
・手術支援ロボット	3 台	・4K3D 手術用顕微鏡システム	1 台
・術中 CT 撮影装置	1 台	・術中ナビゲーションシステム	3 台